

『人生が変わる瞬間(とき)』

■「24時間テレビ」

日本テレビの「24時間テレビ」は、18～19日に放映されますが、そのメイン・テーマは「人生が変わる瞬間(とき)」だそうです。まだ、放送されていないので、内容は分かりませんが、「人にドラマがある」のですから、いろんな「人生が変わる瞬間(とき)」が紹介されると思います。「ドラマ」には、必ず、「苦境」という試練があり、それを克服しようとする主人公の「姿」に「感動」があると思います。

また、蛇足ですが「24時間マラソン」の走者は、萩本欽一さんです。66才の高齢で、灼熱地獄の中を走られる姿は、きっと、今までにない「大感動」のドラマだと確信しています。万一、途中で断念されても、このトライアルには、大きな意義があると思っています。

■私の「人生が変わる瞬間(とき)」

さて、またまた、長文になりますが、私の「人生が変わる瞬間(とき)」をご紹介しますと思います。「まあ、一介のコンサルタントの『人生が変わる瞬間(とき)』を知ってもなあ」という声が聞こえて来そうですが、少し、お付き合いをお願いします。

私の58年間の人生にもいろんな「ドラマ」があったのですが、その中で、人生の方向性を変えたのは、関学を卒業して、トヨタオート大阪に入社し、コンピュータを担当した事、IBM系ソフト開発グループUOSの一員となり社外のソフト開発をした事、トヨタ物流改善プロジェクトのモデル店になった事、トヨタオート大阪を辞めて大阪情報システムへ入社した事、経営コンサルタントを目指して有限会社エー・エム・アイを創業した事という「学生」→「サラリーマン」→「転職」→「独立」の大きな方向転換があったのでした。それぞれの事柄はホームページにご紹介していますので、「すべてはクルマが売れるコンピュータで始まった」<http://www.web-ami.com/cl/index.html>「それは1枚のブレティンで始まった」<http://www.web-ami.com/br/index.html>をご参照してください。

この5つの「人生が変わる瞬間(とき)」の中でも、今日、業務改善コンサルタントをする「志」の芽生えがあったのが、「トヨタ物流改善のモデル店になる」だったのです。「ドラマ」ですから「逆境」が必要なのですが、この「トヨタ物流改善のモデル店になる」にも大きなドラマがあったのです。この辺の事情は「すべてはクルマが売れるコンピュータで始まった」の58話から66話にご紹介していますので、ここでは、一部ポイントをご紹介に留めます。

59話では、『・・トヨタのO課長が事前調査という名目で来社されました。私が、担当して会社の状況や物流センターの進み具合を説明しました。物流センターは守口市にありましたから、クルマでご案内もいたしました。この車中でO課長は

●「実は、トヨタの中でオート大阪さんをモデル店に選ぶのに反対意見も多いのだ。幾ら上司のK部長が福井社長と懇意であっても、困るのだ」と話されました。これには驚きました。・・』とありますように、いきなり「モデル店に出来ない」という先制攻撃を喰らったのです。

次の60話では『・・それから、1週間ほどしてT課長が来社されました。この時も、私が担当して社内の案内などをいたしました。T課長は、「物流センターを立てているのだから、それなりの構想があってやっているのではないか。それでは、トヨタが手伝いする必要がないので、もう良いのではないか」と切り出したのです。これにも、大いに「びっくり」しました。・・』とあるように、またしても、T課長にも「ダメ」という先制攻撃を受けたのです。このように、2人の課長さんに「ダメ」と言われな

がら、私は、トヨタ本体の直接指導による「トヨタ方式」を粘って導入したのです。あまり生々しく書く
と誤解も生じますので、この程度にしておきますが、ホームページも参照して頂ければ、もう少し、
ご理解して頂けると思います。

■「人生を変えた言葉」

「トヨタ物流改善プロジェクト」のモデル店を勝ち取ったのですが、この事が私の人生観を大きく
変えたのです。トヨタのT課長が、「物流改善」導入指導ということで、約1ヶ月にわたって講習をし
てくださり、「トヨタ方式」のイロハを学んだのです。注)トヨタの生産管理は、「一個流し」と言われる
ように調達から納入までをスルーな「物流」と捕らえるのです。

ここが、大きなポイントです。もちろん、「4S」・・整理・整頓・清掃・清潔、「3M」・・ムダ・ムラ・ムリ、
「JIT」・・整流化・標準化・平準化、「人材育成」・・「気づき」「啐啄(ソツタク)」などのベース・コースを
習ったのですが、この中で、私は、「啐啄(ソツタク)」という言葉に感銘したのです。「啐啄(ソツタク)」
は、調べると禅宗の言葉だったのです。「啐(ソツ)」は、ひよこが卵から孵化する時に発するピョと
いう鳴き声、「啄(タク)」は、その声を聞いて親鳥が嘴で突付いて殻をやぶる事を意味しており、こ
のタイミングが大切だということで「啐啄(ソツタク)の機」と言うこと習ったのです。

当時、私は、経営企画の課長で、これから「トヨタ方式」で社内改善をするという時期だったので、
ホントに「目からウロコ」状態だったのです。その頃、トヨタの方から「愛語回天」・・相手を思っ
てかけた言葉で、その人に人生が変わる、「南禅寺のお坊さん」・・子を思う親のありがたさなどの話を
連続して聞く機会があったのです。このような事から「禅の言葉」を勉強するようになったのです。

このようにして勉強した中に「随所為主、立処皆真」(随所に主となす、立つところ皆真なり)があ
ります。意味は、「その処で、この人がいないと困ると思われる、かけがえのない存在(主)になるこ
とを心がけよ」という事なのですが、経営企画を担当していた私に、「営業やサービスの現場で頑
張る人を社内に紹介する」という発想の転換をさせたのです。

■「随所為主、立処皆真」

私は、現在、業務改善のコンサルタントをしています。「業務改善」の手法は、「整流化・標準化・
平準化」(JIT改善)、「システムによる見える化」(ABM管理)という2つに凝縮しています。もちろ
ん、雇ってくださる経営者の要請がないと出来ないのですが、私の基本方針は、社名AMI(仏語、
仲間)に凝縮しています。「仲間」という視点を持ちながら、Advanced Management with I
nformation すなわち、「情報」を活用して先進的な経営を行うという意味を込めた社名なのです。

「コンサルを誰のために行うのか？」は、重要なポイントなのです。「誰のために」・・もちろん、雇
ってくださる経営者のためになのですが、「それを実現する」・・社員さんがイキイキするという方法
で、現場の体温を上げて行く事で実践してもらっているのです。決して、「実践させる」ではないの
です。その為には「立処皆真」(立つところ皆、真なり)という事、すなわち、目立つ部署ばかりでな
く、裏方で支援する部署も巻き込んでという「複眼」で指導しながら、「随所為主」(随所に主(ある
じ)となす)即ち、実際に苦勞する人をスターとして紹介するという「スター発見」をしているのです。

人材育成の第一歩は、インフォーマルなリーダーづくり・・主(あるじ)づくりなのです。「陽の当ら
ない部署」が必ずあるのです。しかし、この方々が最終工程を担当しているので、「顧客満足」の仕
上げを彼らが行っているのです。この点を心得て、現場で一緒に「汗」をかきながら、「4S」(整理・
整頓・清掃・清潔)から始まる改善を「システム」という視点で支援を加えて「見える化」で促進して

いるのです。「泥臭い」というのが皆さんの印象かも知れませんが、「社員」さんがイキイキするのが一番なのです。それを忘れないで「業務改善コンサルタント」をやって行きたいと思っています。

■まとめ

- ・誰にもドラマがあり「人生が変わる瞬間(とき)」がある
- ・ドラマは「逆境」を越える「姿」に感動がある
- ・「ロ卒啄(ソツタク)」は、トヨタから教わった禅の言葉
- ・「随所為主、立処皆真」で、全体を巻き込んで行くコンサル手法